

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST. (2012) 87(2)

April 2012

# GSJ コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

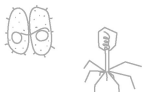
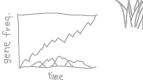
GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>

## 目 次 頁

|                                                                                     |                                        |    |
|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|----|
|    | 学会長からのご挨拶 .....                        | 3  |
|    | 名簿確認および訂正のお願い .....                    | 3  |
|    | おしらせ .....                             | 3  |
|    | 日本遺伝学会第84回大会ニュース（その4） .....            | 4  |
|    | 2012年度第1回幹事会議事録 .....                  | 14 |
|    | 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学系教員公募のご案内 ..... | 15 |
|    | 国立遺伝学研究所 研究教育職員募集要項 .....              | 16 |
|    | 神戸大学理学研究科生物学専攻 講師または准教授の公募 .....       | 17 |
|   | 第29回（平成24年度）持田記念学術賞の推薦について .....       | 18 |
|  | 第29回（2012年度）井上学術賞の推薦について .....         | 19 |
|  | 第44回内藤記念科学振興賞推薦について .....              | 20 |
|  | <b>本 会 記 事</b>                         |    |
|  | 会員異動 .....                             | 20 |

## 【学会長からご挨拶】

会員の皆様におかれましては、日頃より日本遺伝学会の活動にご協力そしてご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

私自身も会長任期が第2期目の2年目に入りまして、今年は会長改選の年にもなっております。この間、幹事や評議員会の先生方とともに、優先課題を決めながらいろいろと仕事をさせていただいております。

第1期には長年の課題でありました選挙の電子化を敢行いたしました。お陰様で大きな問題もなく、時間的にも経済的にも格段の効率性をあげることが出来ました。投票率のさらなる改善にもつながると期待しています。今年の選挙も、この電子化システムが機能すると思います。さらに、第2期目の昨年には「アジア遺伝学会」(仮称)の立ち上げを行いました。まだ軟弱な基盤ではありますが、国際的視野に立った本学会の発展の基礎になればと思います。また、遺伝学用語集の改訂には、委員会の先生方を中心に多くの方々の献身的なご努力をいただいております。本年の私の任期終了までには、何とか最終的な目処をつけられればと思っております。

今年は、九州大学生体防御医学研究所の中別府雄作会員を大会長として、関係の皆様のご協力の下に、本学会の第84回大会が九州大学で9月24日から26日まで開催されます。国際化を睨んだ企画や今後の本学会の発展に重要なテーマが興味深くそして数多く取り上げられています。会員皆様の奮ってのご参加をお願いする次第です。

この他、男女共同参画への取り組みや、若手会員数の増加やシニア会員への会員継続のための工夫など、本学会の発展への努力を、評議員会の先生方のご理解の下、幹事の先生方とともに続けていきたいと思っております。

会員の皆様におかれましても、どうか今後とも本学会へのご協力・ご支援を引き続きをお願い申し上げます。

2012年5月 日本遺伝学会長 五條堀 孝

## 【名簿確認および訂正のお願い】

2012年8月に2013・2014年度の役員選挙を行います。投票は前回と同様に電子化投票となりますので、学会 HP (<http://gsj3.jp/>) の会員のページより ID とパスワードのご確認をお願いいたします。またその際に会員情報のご確認をお願いいたします。ご所属が変更になりました方、E-MAIL アドレスが変更になりました方は、ご訂正をお願いいたします。なお、ID を忘れてしまった方、会員のページに入れない方、E-MAIL アドレスをご登録されていない方は至急事務局までご連絡くださいますようよろしくお願いいたします。

<連絡先>

〒411-8540 静岡県三島市谷田1111  
国立遺伝学研究所内  
日本遺伝学会事務局  
TEL/FAX: 055-981-6736  
Email: japgenet@lab.nig.ac.jp

## 【おしらせ】

- 松本邦弘会員が2012年春の紫綬褒章を受章されました。
- 平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を小林武彦会員が受賞しました。(学会推薦) また、他の機関からの推薦にて、文部科学大臣表彰科学技術賞若手科学賞を、有村慎一会員、久原篤会員、佐瀬英俊会員が受賞されました。
- 久原篤会員が第52回東レ科学技術研究助成受領者に選ばれました。

## 日本遺伝学会第84回大会ニュース

2012年の第84回大会は、九州大学医学部を会場に下記のような企画で準備を進めております。全国から多くの方々の参加をお待ちしております。

大会ホームページ (<http://gsj2012.bioreg.kyushu-u.ac.jp>) で、最新の情報をご覧ください。ランチョンセミナー、機器・試薬等展示、広告掲載、市民公開講座、男女共同参画推進に関わる大会参加支援、会場へのアクセスについての詳細は大会ホームページに掲載しております。

第84回大会でも学生の参加を歓迎するため、学生の参加費は無料とし、学生会員で発表される方には旅費の一部援助も行います。

また、優れた発表は Best Papers (BP) 賞として表彰いたします。なお、昨年度 BP 賞の一部は学会長主催ブレナリーワークショップとして講演披露されます。

1. 会 場： 九州大学医学部 百年講堂・同窓会館（〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1）
  - ・会場へのアクセスマップ (<http://gsj2012.bioreg.kyushu-u.ac.jp/access.html>)
  - ・会場のホームページ (<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/100ko-do/>)
2. 会 期： 2012年9月24日(月)・25日(火)・26日(水)  
なお、公開市民講座を9月24日(月)午後6:00から予定しています(後述)。
3. 企 画：
  - 1) 一般講演（9月24日午前・25日午前・26日午前）
    - ・講演時間は1題につき15分（発表12分、質疑応答3分）を予定しています。PC用プロジェクター機材のみを用意しますので、各自発表用PCをご持参下さい。
    - ・一般講演の英語による国際セッション枠の試行  
日本遺伝学会の国際化を進める上で、遺伝学分野に在籍している留学生の本学会入会および学会大会への参加を奨励する方策が有効であると思われます。これまで、一般講演は基本的に日本語で行われるため、留学生は学会大会に積極的に参加しにくい状況でした。第84回大会では、留学生の学会参加をどのようにしていけば良いのかを検討する一助にしたいと考え、主として留学生や海外からの参加者を対象に発表と質疑応答のすべてを英語で行う一般講演のセッションとして、12名程度の講演者を想定した国際セッション枠を試行的に設けます。  
・英語での発表を希望される方は、(7. [講演申し込み](#))をご覧ください。
  - 2) シンポジウム及びワークショップ  
シンポジウム（1課題、3時間）3課題、ワークショップ（1課題、2時間もしくは3時間）15課題を予定しています。タイトルと世話人は以下の通りです。WS5、WS7、WS11、WS13では一般講演からの演題を公募します。公募される方は、一般講演の申し込みの際に発表を希望されるワークショップを選択ください。  
【シンポジウム】  
S1. 公開国際シンポジウム (English)（9月24日、13:30-16:30）
    - ・テーマ：Epigenomic regulation of cell fate determination and homeostasis in various organisms  
(多様な生物における細胞の運命決定・恒常性維持とエピゲノム制御)
    - ・世話人：角谷 徹仁（国立遺伝学研究所）、佐々木裕之（九州大学生体防御医学研究所）
    - ・共 催：文部科学省科学研究費補助金・特定領域研究「生殖系列の世代サイクルとエピゲノムネットワーク」

## ・ シンポジウムの概要

エピゲノム制御は多様な生物種において細胞の運命決定や恒常性維持に関わっている。具体的には、発生関連遺伝子の転写制御、細胞核のリプログラミング、セントロメアやヘテロクロマチンの形成と維持、トランスポゾンの転写と転移の抑制、そして生物の多様性や進化などにおいて、エピゲノム制御は中核的な役割を果たしている。本シンポジウムでは、超高速シーケンサーを用いた網羅的エピゲノム解析の結果をふくめ、分裂酵母、シロイヌナズナ、ショウジョウバエ、マウスからヒトに至る様々な生物で明らかになってきた、細胞運命決定と恒常性維持におけるエピゲノム制御について討論する。このシンポジウムは英語で行なう。

Epigenomic regulation is involved in cell fate determination and homeostasis in various organisms. It plays an important role in transcriptional regulation of developmental genes, nuclear reprogramming, formation and maintenance of centromere and heterochromatin, suppression of transcription and transposition of transposons, phenotypic variation and evolution. In this symposium, we discuss the epigenomic mechanisms of cell fate determination and homeostasis in various organisms, including fission yeast, Arabidopsis, Drosophila, mouse and human, by incorporating epigenomic data obtained by high-throughput DNA sequencers. English will be used throughout this symposium.

## ・ 演 者：S1-1 Rob Martienssen (Cold Spring Harbor Laboratory, NY, USA)

S1-2 塩見 春彦 (慶応義塾大学大学院医学研究科)

S1-3 小倉 淳郎 (理化学研究所バイオリソースセンター)

S1-4 深川 竜郎 (国立遺伝学研究所)

S1-5 角谷 徹仁 (国立遺伝学研究所)

S1-6 佐々木裕之 (九州大学生体防御医学研究所)

S2. 公開シンポジウム (日本語) (9月26日, 13:30-16:30)

## ・ テーマ：活性酸素シグナル伝達制御の遺伝学

## ・ 世話人：赤池 孝章 (熊本大学大学院生命科学研究部), 中別府雄作 (九州大学生体防御医学研究所)

## ・ 共 催：文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究「活性酸素のシグナル伝達機能」

## ・ シンポジウムの概要

好気性生物は、酸素分子の化学的反応性(酸化還元: redox 活性)を利用してエネルギー代謝を効果的に行うことにより高度な生命活動を営んでいます。活性酸素は生体内のエネルギー代謝や感染防御過程において発生する一連の反応性分子種( $O_2^-$ ,  $H_2O_2$  等)であり、感染、炎症、がん、動脈硬化・糖尿病などの生活習慣病や代謝性疾患、アルツハイマー病などの神経難病などの様々な疾病の病因となることが示唆されています。一方、生体内には Nox (および Duox) と呼ばれる酵素群があり、白血球の抗菌作用のみならず、血管系、上皮・内分泌系細胞やリンパ球など多彩な細胞において積極的に活性酸素を産生し殺菌作用以外の生理機能を発揮していることが分かってきました。また、過酸化水素( $H_2O_2$ )が血管平滑筋弛緩をもたらすシグナルとして機能していることも示唆されています。さらに、活性酸素関連分子である一酸化窒素(NO)は活性酸素と反応することにより化学的に毒性が高まることが知られておりますが、実際は生体内で細胞保護シグナルとして重要な情報伝達を司っています。本シンポジウムでは『活性酸素シグナル伝達制御』とその制御に関わる遺伝子に注目して研究を進めている5名の最先端の：研究者の方々に遺伝学の新しい潮流を紹介していただきます。

## ・ 演 者：S2-1 住本 英樹 (九州大学大学院医学研究院)

S2-2 三木 裕明 (大阪大学微生物病研究所)

S2-3 赤池 孝章 (熊本大学大学院生命科学研究部)

S2-4 山本 雅之 (東北大学大学院医学系研究科)

S2-5 中別府雄作 (九州大学生体防御医学研究所)

S3. 学生企画公開国際シンポジウム (English) (9月26日, 13:30-16:30)

- ・ テーマ: Contemporary Evolution in Wild Population (野外における Contemporary Evolution)
- ・ 世話人: 深野 祐也 (九州大学大学院システム生命科学府生態科学研究室), 松本 知高 (九州大学大学院システム生命科学府進化遺伝学研究室)
- ・ 共 催: グローバル COE プログラム: 自然共生社会を拓くアジア保全生態学 (九州大学・東京大学)
- ・ シンポジウムの概要

Contemporary Evolution とは、現在起きている比較的急速な進化的変化のことである。このシンポジウムでは、様々な分類群を対象に、ゲノミクス・集団遺伝学・野外実験などを通して野外での Contemporary Evolution に関する研究を進めている研究者に話題を提供して頂き、今後の方向性を議論する。このシンポジウムは英語で行なう。

Contemporary evolution is defined as heritable trait evolution observed in contemporary time. In this symposium, several researchers will introduce their studies on contemporary evolution in wild populations using various approaches including genomics, population genetics and field and green house experiments. Then, we will discuss the future directions of the field. English will be used throughout this symposium.

- ・ 演 者: S3-1 深野 祐也 (九州大学)  
S3-2 森長 慎一 (東京大学)  
S3-3 Andrew Hendry (McGill University)  
S3-4 Pierre-Olivier Cheptou (The University of Montpellier)  
S3-5 寺井 洋平 (東京工業大学)

**【ワークショップ】**WS1: ミトコンドリアゲノムが制御する多様な生命現象 ～動植物に見るその共通性と相違性～ (9月24日, 13:30-15:30)

- ・ 世話人: 村井 耕二 (福岡県立大学生物資源学部), 鳥山 欽哉 (東北大学大学院農学研究科)
- ・ 概 要: ミトコンドリアは単なるエネルギー生産の場としての位置づけから、核ゲノムの発現を制御することで、さまざまな生命現象に関与する細胞小器官として認識されつつある。本ワークショップでは、動物および植物の研究者を織り交ぜ、ミトコンドリアゲノムの変異に起因する様々な生命現象 (ヒト疾患, 寿命, 発生制御など) について紹介し、その共通性と相違性を明らかにする。ミトコンドリアゲノムに由来するレトログレードシグナルや応用面についても議論する。

WS2: ゲノム時代における理論集団遺伝学 (9月24日, 13:30-15:30)

- ・ 世話人: 印南 秀樹 (総合研究大学院大学), 高橋 亮 (京都産業大学)
- ・ 概 要: 次世代シーケンサーの普及により、莫大な塩基配列データが蓄積しているが、この大量データをどのように解析し生物学的に意味のある情報を引き出していくかが大きな課題になっている。このように、データの質と量が劇的に変化する現在、集団遺伝学という分野が理論的にどのように対応できるか考えたい。このワークショップでは、集団遺伝学のモデル構築・解析とその結果を使った統計解析手法に関する研究を進めている研究者に話題を提供して頂き、今後の解析の方向性と理論的課題を議論する。

WS3: モデル動物の特徴を活かした行動遺伝学の新たな展開 (9月24日, 13:30-15:30)

- ・ 世話人: 小出 剛 (国立遺伝学研究所), 石原 健 (九州大学大学院理学研究院)
- ・ 概 要: 動物は、体の内外からの様々な情報を神経系で高度な情報処理をすることによって、その動物に固有の多様な行動を示す。近年、遺伝学とイメージング・ディープシーケンスなどを組み合わせて解析することにより、このような脳・神経系の働きの解明が進んできている。本ワークショップでは、線虫から哺乳類までのモデル動物に固有の行動制御メカニズムについてご講演頂き、行動遺伝学研究的今後の議論していきたい。



WS4：新学習指導要領の下での遺伝教育のありかた（9月24日，14：45－17：45）

- ・世話人：向井康比己（大阪教育大学），池内 達郎（元東京医科歯科大学）
- ・概要：2012年度から中学校および高等学校理科において，新学習指導要領に基づいた教育が行われ，理科や生物において教えるべき遺伝分野の内容とその順序は大きく変わった．高校生物では DNA・遺伝子が中心となり，遺伝のしくみ（メンデル遺伝）は中学校に移行した．中学・高校の教師や大学で遺伝分野の教育に携わる方から話題提供をお願いし，学校教育と大学あるいは社会との接続を考え，学校で遺伝分野をどう教えるか，本来の遺伝教育はどうあるべきかを学会の構成員はもとより，現場の教師，市民とともに議論する場にしたい．

WS5：遺伝的変異の発生機構から考えるゲノム進化研究の新展開（9月24日，15：45－17：45）

- ・世話人：大野みずき（九州大学大学院医学研究院基礎放射線医学分野），内村 有邦（大阪大学生命機能研究科時空生物学講座）
- ・概要：現在の生物のゲノムはどのようにして形づくられてきたのか（すなわちゲノムの進化過程）を考える上で，その原動力であるゲノム変異の発生様態を知ることが重要である．本ワークショップでは，次世代以降に伝えられる遺伝的変異の発生機構（DNA 複製エラー，塩基損傷，転移因子，遺伝子重複など）とその表現型への影響に関連する最新の研究について紹介し，新しいゲノム進化研究の可能性について議論していきたい．
- ・一般講演からの演題公募：1 演題15分（質疑応答を含む）

WS6：ショウジョウバエの進化・集団遺伝学（9月24日，15：45－17：45）

- ・世話人：田村浩一郎（首都大学東京大学院理工学研究科生命科学専攻），和多田正義（愛媛大学大学院理工学研究科環境機能科学専攻）
- ・概要：ショウジョウバエは伝統的に進化・集団遺伝学の材料として活用され，当該分野の発展の原動力となってきた．2007年には，ショウジョウバエ属に属する12種の全ゲノム配列データも公表され，新たな飛躍が期待される．このような状況を鑑み，日本におけるショウジョウバエの進化・集団遺伝学の発展に寄与することをねらい，過去2年間の日本遺伝学会でワークショップを開催してきた．その目的を継続し，本年もワークショップを開催する．

WS7：原核生物に習う遺伝情報安定性の維持機構の原理（9月24日，15：45－17：45）

- ・世話人：片山 勉（九州大学大学院薬学研究院），石野 良純（九州大学大学院農学研究院）
- ・概要：生物の遺伝情報の維持機構を解析することは，生命現象の本質を理解することに繋がる．その研究に大腸菌やファージがモデル生物として果たしてきた役割の大きさは言うまでもないが，多くの真核生物についてゲノム安定性維持機構研究が盛んに行われている現在も，真正細菌，古細菌を対象とした原核生物の研究から，基本的な生命現象について多くのことを学ぶことができる．本ワークショップでは，原核微生物の遺伝情報安定性維持機構に関する最新の研究を紹介し，何が分かって何が分かっていないのかを整理すると共に，この研究領域から今後発信していく情報のビジョンを示したい．本ワークショップでは演題を公募するが，原核生物に限らず，比較対象になる真核生物での研究も歓迎する．
- ・一般講演からの演題公募：2～3 題を採択予定，採択数によって発表時間12～18分（質疑応答を含む）

WS8：男女共同参画公開ランチョンワークショップ（9月25日，12：10－13：40）

「優れた科学の芽を皆でサポートするために」～九州大学の女性支援の実践～

- ・世話人：日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会，九州大学男女共同参画推進室
- ・概要：女性研究者の支援のための取組みのひとつに，大学における「女性枠」による教員採用がある．九州大学では，男女共同参画の推進，女性教員への支援と呼応して，平成21年度からの3年間に24名の「女性枠」採用を進めている．本ワークショップでは，女性研究者支援への積極的な取組みを進める九州大学の実践について，その内容を紹介してい

ただくとともに、実際に支援を受けた研究者からもお話をうかがい、昨年度のワークショップに引き続き、若手研究者への支援のあり方についての意見交換を進める。

- ・「10. 男女共同参画推進にかかわる大会参加支援について」のお知らせと、「11. 参加登録時におけるアンケートについて」のお願いがありますのでご覧ください。

WS9：プレナリーワークショップ — 昨年度の BP 受賞講演から — (9月25日, 13:50-15:00)

Best Papers 賞 (BP 賞) は、多数の審査員による投票により、全ての一般講演から選ばれる名誉ある賞です。それがどんな講演か、知りたいと思いませんか？

今大会も、プレナリーワークショップでは前年度 BP 受賞者から選ばれた4名の方にお話しいただきます。最先端研究の現場に携わる先鋭の研究成果を聴けるだけでなく、ひとを惹きつけるプレゼンテーションがどのようなものかを肌で感じることもできる、良い機会でもあります。

この素晴らしい講演を、ひとりでも多くの方に楽しんでいただくため、他の講演とは重ならない単独のワークショップとして、総会の直前に開催します。総会直後には、木原賞、奨励賞の受賞講演もあるので、抜け出して遊びに行ってしまうのは本当にもったいない濃密な時間枠です。

講演内容は昨年度講演の話題に加え、新たな展開を含めたお話をしていただく予定です。面白い演題がピックアップされているだけに、昨年度の大会で聴いたという方は、続きが気になっていることでしょうし、昨年度は聴き損ねてしまったという方も、分野が違っていても最先端研究の一端として押さえておきたい内容のはずです。

プレナリーワークショップは、こうした価値ある BP 受賞講演をより多くの人に知ってもらおうという趣旨で、五條堀孝遺伝学会会長の発案によって遺伝学会第82回大会（北海道）から実施され、本年で3回目を迎えます。

満足は保証付です。ひとりでも多くの方のご参加をお待ちしております。

日本遺伝学会 会長 五條堀 孝

前年度大会 BP 賞選考委員長 遠藤 俊徳

WS10：マウス遺伝学が支える生命科学 part 2 (9月26日, 13:30-15:30)

- ・世話人：高橋 阿貴（国立遺伝学研究所マウス開発研究室）、鈴木 敦（横浜国立大学工学研究院）

- ・概要：マウスの生活史はヒトとともにある。ヒトの移動とともに世界中に広がり、ヒトの穀物を食べ、ときにペットとして可愛がられてきた。実験動物としても、近交系統が複数つくられ、遺伝情報が整備され、また様々な遺伝子操作技術が確立されてきたことから、マウスは哺乳動物の遺伝学研究において最強のツールとなっている。今日では、マウスの研究がヒトの生命活動の理解を支えているといっても過言でない。本ワークショップでは、去年に引き続き、マウスを用いた基礎から応用に至るまでの研究に携わる研究者に最新の話題を提供していただき、マウス遺伝学が支える生命科学について議論する。

WS11：細胞創成に向けた遺伝子とゲノムデザインのシナリオ (9月26日, 13:30-15:30)

- ・世話人：片岡 正和（信州大学工学部）、板谷 光泰（慶應大学先端生命研）

- ・概要：ゲノムを設計し、合理的な細胞を創成することは生命学者の夢であるが、ゲノム全体の機能を塩基配列レベルで青写真を描ける状況にはまだ達していない。ベンター研究所による人工合成ゲノムを有するマイコプラズマ細胞創出も汎用性からはまだ遠い。本ワークショップではこの現状認識を基に、塩基配列レベルでの遺伝子デザイン、さらにゲノムデザインへの合理的な道程を希求し、生命システムの構築へのアプローチを議論する場としたい。ゲノム合成を含めた現状の合成生物学を遺伝学会会員がどのように想定しているかを抽出するため、約半数の講演者を一般講演から募集するオープン形式を取りたい。

- ・一般講演からの演題公募：3題程度を公募、発表時間15~20分程度（質疑応答を含む）

WS12：植物の発生・分化とコミュニケーション (9月26日, 13:30-15:30)

- ・世話人：平野 博之（東京大学大学院理学系研究科）、野々村賢一（国立遺伝学研究所）

- ・概要：植物の発生・形態形成のメカニズムは、動物とは共通点はあるものの、大きく異なる点



も存在する。たとえば、植物の発生における細胞の運命決定は、細胞系譜よりも、その細胞がおかれている位置情報、すなわち細胞間コミュニケーションによる制御の方が大きい。これは、植物には堅い細胞壁があり細胞移動ができないために進化してきたと考えられる。一方、コミュニケーションの貢献度の高さは、植物の発生・分化や形態形成のフレキシビリティとも密接に関連している。本ワークショップでは、植物の発生と細胞間や組織間などのコミュニケーションに関して、世界を牽引している研究者に講演をお願いし、最新研究を発表していただくとともに、植物発生研究者の間のコミュニケーションを図る。

**WS13：核構造と染色体構造が取り仕切るゲノム編成の維持と変化（9月26日，15：45－17：45）**

- ・世話人：石井浩二郎（大阪大学生命機能研究科），舩本 寛（かずさ DNA 研究所）
- ・概要：真核細胞では、ゲノムは複数の染色体 DNA に分割されて維持される。核はそれらの分割ゲノムを総体として維持するための構造と表現できる。しかしながらそのような染色体の構造と核構造は、実はゲノム編成の維持のみならず、ごく限られた局面ではゲノム編成の変化にも積極的に関わる可能性が指摘され始めた。がん細胞で近年見出された個別の染色体の粉碎現象（chromothripsis）などもそういった作用の極端な現れかもしれない。本ワークショップでは、多様な現象より導かれる核や染色体とゲノム編成とのダイナミックな関係性について議論したい。
- ・一般講演からの演題公募：2 演題程度，発表時間15分程度（質疑応答を含む）

**WS14：アジアの植物遺伝学“Plant Genetics in Asia”（9月26日，15：45－17：45）**

- ・世話人：遠藤 隆（京都大学大学院農学研究科），真木 寿治（奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科）
- ・概要：昨年の大会において設立準備委員会が発足したアジア遺伝学コンソーシアムではアジア諸国の遺伝学研究者の相互理解や研究交流を活発に行い、将来の遺伝学研究を担う次の世代の育成をアジア全体に広げていくことを目指している。まだ準備段階であるコンソーシアムの具体的な活動のあり方を模索する目的で、今回はアジアにおいてそれぞれの国や地域に深い関わりや伝統を持つ栽培植物の遺伝学にスポットをあてたワークショップを企画した。中国およびマレーシアで活発な研究を行っている研究者数名と日本の若手研究者を招待して、英語での研究発表を行う。留学生や他分野の会員の積極的な参加と活発な議論を期待する。

**WS15：九州ブランドのバイオリソース [NBRP ワークショップ]（9月26日，15：45－17：45）**

- ・世話人：熊丸 敏博（九州大学大学院農学研究科），仁田坂英二（九州大学大学院理学研究院）
- ・概要：九州では温暖な気候を生かした多様なバイオリソースが保存されている。また、震災以降リソースのバックアップ体制の整備が急がれており、首都圏から遠く離れた九州でバックアップされているリソースも増えている。このワークショップでは、九州で整備されているバイオリソースを中心として、リソース整備の状況とそれらの特性を生かした研究について話題を提供する。

4. 総会・受賞講演：・会場：九州大学医学部 百年講堂 大ホール  
・日程：9月25日(火) 13：50－18：10（「プレナリーワークショップ」を含む）
5. 懇 親 会：・会場：九州大学医学部 百年講堂  
・日程：9月25日(火) 18：30－20：30

6. 参 加 登 録：

(1) Web 登録

大会に参加される方は、6月1日(金)より大会ホームページ (<http://gsj2012.bioreg.kyushu-u.ac.jp>) の大会参加登録画面から事前参加申し込みを行ってください。

## (2) 参加費の振込

- ・事前参加でお申し込んだ後、お振込いただく際は、GSJ コミュニケーションズ87(2)の郵便払込取扱票の通信欄に下記の記載事項を記し、下記ゆうちょ銀行の「日本遺伝学会第84回大会」口座までお振込みください。
- ・通信欄記載項目  
事前参加申込の際は下記の参加費の区分（一般会員・学生会員〔無料〕・一般非会員・学生非会員〔無料〕）と懇親会費参加か否か記載をお願いいたします（学生の懇親会費は有料です）。  
事前参加登録完了後にお知らせします「参加登録番号」の記載をお願いいたします。
- ・払い込まれた方が特定できるように一人1枚ずつ別々の払込取扱票をお使いください。  
1枚の払込取扱票を用いて研究室単位等でまとめて支払わないようお願いいたします。  
所定の振込用紙がない場合、郵便局に備え付けの振替用紙（青色）で、下記口座までお振込みください。

## &lt;送金先&gt;

ゆうちょ銀行

口座番号 00110-6-672321

口座名称 日本遺伝学会第84回大会

(ニホンイデングაკカイ

ダイハチジュウヨンカイ

タイカイ)

他行等からのお振込の場合

店 名：019

預金種目：当座

口座番号：0672321

## 大会参加費

|         | 事前登録：6月1日(金)～8月6日(月)<br>(8月10日迄に参加費をお払い込みください。) | 当日登録                  |
|---------|-------------------------------------------------|-----------------------|
| 一 般 会 員 | 7,000円                                          | 8,000円                |
| 学 生 会 員 | 無 料                                             | 無 料                   |
| 一般非会員   | 9,000円                                          | 10,000円               |
| 学生非会員   | 無 料<br>(講演要旨集は当日実費販売)                           | 無 料<br>(講演要旨集は当日実費販売) |

## 懇親会費

|         | 事前登録：6月1日(金)～8月6日(月)<br>(8月10日迄に参加費をお払い込みください。) | 当日登録   |
|---------|-------------------------------------------------|--------|
| 一 般 会 員 | 6,000円                                          | 7,000円 |
| 学 生 会 員 | 3,000円                                          | 4,000円 |
| 一般非会員   | 6,000円                                          | 7,000円 |
| 学生非会員   | 3,000円                                          | 4,000円 |

## 【注意事項】

- ・会員の方は、2012年度までの遺伝学会会費を参加登録日までにお納め下さい。
- ・現在非会員で会員料金で参加される方は、参加登録をする前に入会手続きと会費納入を行ってください (<http://gsj3.jp/nyukai.html>)。
- ・大会及び懇親会への参加者は、参加登録を行ってください。参加証の無い方は、原則として会場への

入場はできません。

- ・事前登録としての参加登録の完了には、Web 参加登録及び参加費振込の両方が必要です。8月10日(金)までにお振込の確認が取れない場合は当日参加とさせていただきます。

注) 海外から事前参加登録された参加者は当日受付でのお支払いとなりますので、この限りではありません。

- ・8月7日(火)以降の参加登録は、当日受付にてお願いします。
- ・Web での事前参加登録後、8月10日(金)までに参加費振込を済まされた方には、9月上旬に参加証と講演要旨集を郵送いたします。
- ・海外から事前参加登録された方には大会当日に参加証と講演要旨集をお渡ししますので、受付までお越し下さい。
- ・当日登録の学生(会員・非会員)は、学生証の提示をお願いします(提示のない場合、一般非会員扱いとなります)。

#### 7. 講演申し込み： 2012年6月1日(金)～7月5日(木)

シンポジウム・ワークショップ及び一般講演は、大会ホームページ (<http://gsj2012.bioreg.kyushu-u.ac.jp>) の参加登録画面(6月1日(金)より稼動)からお申し込みください。講演申し込みは必ず Web 上での参加登録をすませた後に行ってください。参加登録番号が必要となります。

- ・第84回大会では、留学生会員やアジアからの参加者のために、一般講演の一部(9月25日午前中、12題程度)を国際セッション枠とし、英語による発表に限定します。英語での発表を希望される方は必ず発表言語の選択肢の(English)を選択ください。留学生の指導教員の先生方には登録のアシストを宜しく願っています。

#### 【注意事項】

- ・日本語要旨と英語要旨の両方の登録をお願いします。
- ・講演の申し込みは一般講演およびシンポジウム・ワークショップを含め、1人1題を原則とします。
- ・一般講演で発表できるのは日本遺伝学会会員のみです。会員の方は2012年度までの学会費を7月5日(木)までにお納めください。
- ・非会員の方が一般講演で発表される場合は、先に入会手続きを日本遺伝学会ホームページ <http://gsj3.jp/nyukai.html> からお願いします。会費納入は7月1日(日)までをお願いします。
- ・オンライン演題登録後、確認修正画面で登録番号とパスワードにより登録をご確認下さい。
- ・登録番号やパスワードを忘れた場合のお問い合わせには応じられません。パスワードを忘れた演題で修正が必要になった場合には、登録をやり直し、日本遺伝学会第84回大会運営事務局 <iden84@aeplan.co.jp> にお知らせ下さい。講演要旨締め切りは7月5日(木)です。

#### 8. 学生会員の旅費援助：

- ・学生会員の参加奨励のため、発表する学生会員に旅費の一部を援助(交通費実費程度)いたします。ただし、所属研究室や日本学術振興会などから旅費が支給される方はご遠慮ください。
- ・大会全期間参加を条件とします(9月24日(月)～26日(水))。
- ・申請方法：申請書は1人につき以下の6点をA4一頁に記載し、下記住所まで郵送ください。  
1) 氏名、2) 所属と学年、3) 所属住所、4) 旅費援助希望理由、5) メールアドレス、6) 指導教員のサインと押印

締め切り：7月5日(木)必着

送付先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会  
日本遺伝学会84回大会 旅費援助申請係  
TEL: 055-981-6736 FAX: 055-981-6736

**9. Best Papers 賞**

昨年の大会と同様の要領で、大会発表の一般演題の中から優れた研究発表10件程度を選んで表彰いたします。一般講演として登録後、ワークショップの口演発表として選ばれた演題も対象になります。

**10. 男女共同参画推進にかかわる大会参加支援について：**

日本遺伝学会では、毎年の大会開催に際し、大会準備委員会による保育室の設置とともに、学会として保育室利用料金の支援を行ってまいりました。さらに、昨年の第83回大会から1件の上限を5万円とする大会参加支援を新設いたしました。日本遺伝学会第84回大会に参加を予定されている方で、託児施設の利用を含む大会参加支援をご希望される方は、日本遺伝学会ホームページ (<http://gsj3.jp/taikai.html#120209>) から、大会参加支援申請書をダウンロードの上、必要事項を記入し、6月10日までに日本遺伝学会事務局 ([japgenet@lab.nig.ac.jp](mailto:japgenet@lab.nig.ac.jp)) へメールでお申し込み下さい。

**11. 参加登録時におけるアンケートについて（男女共同参画推進特別委員会より）：**

日本遺伝学会は男女共同参画学協会連絡会に加盟し、学会における女性研究者の活動度の現状の調査に協力して、2010年に大会参加者の属性に関するアンケートを実施いたしました。2011年には、本学会の活性化と今後のよりよい大会運営をはかるためにも有意義なものとして、学会として同様のアンケートを実施し、皆様のご協力をいただきました。

今年も引き続き、大会への参加登録に際して、性別、職階、大会への参加等に関して、簡単なアンケートを実施させていただく予定です。各項目とも回答は選択式で、2～3分で終了いたしますが、回答は任意ですので、お答えいただける範囲で結構です。また、回答は統計的に処理いたしますので、個人を特定する情報として利用されることはありません。

アンケート実施へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

**12. 公開市民講座：**

- ・テーマ：健康と21世紀の遺伝学・ゲノム科学
- ・日 時：平成24年9月24日(月) (18：00～20：00)
- ・会 場：九州大学医学部 百年講堂 大ホール
- ・入場無料、申込不要：会場まで直接お越し下さい。
- ・概 要：

21世紀に入り人類の遺伝情報に関する研究は飛躍的に発展しました。多くの遺伝病の原因となる遺伝子の異常が同定されただけでなく、生活習慣病から神経精神に関わる病気までほとんどの疾患に対する感受性(病気にかかりやすい体質)が個人の遺伝子配列によって決定されることが明らかになっています。また最近では、それぞれの人が持つ遺伝子の配列により人格や性格が違ってくことも説明されようとしています。このような人類の遺伝子および遺伝に関する研究の進展は皆さんの想像を大きく超えているのではないのでしょうか。

日本遺伝学会第84回大会では、公開市民講座として「ゲノムつまり遺伝情報の研究が私たち人類の健康と安全な生活にどのように関わるのか」というテーマで、3名の最先端のゲノム研究者による講演会を企画いたしました。「腸内細菌と人間の共生関係」、「ヒトの寿命とミトコンドリアゲノムの関係」、「様々な疾患の要因としての生活習慣と遺伝子の個人差の関係」について、健康に関する遺伝学の基礎的な問題を分かりやすく講演していただきます。

本公開市民講座が、「21世紀の遺伝学・ゲノム科学が人類の健康の増進において果たす役割」を理解していただくとともに、「私たちの日々の健康な生活における遺伝学の意義」を再認識していただく契機となることを願っています。

**・講演者と演題**

- ① 服部 正平(東京大学新学術創成科学研究科・教授)

「人間の体内に共生する細菌の網羅的なゲノム解析から細菌とヒトの共生を読み解く」

- ② 田中 雅嗣 (東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿ゲノム探索・チームリーダー)  
「ミトコンドリアゲノムと健康長寿」
- ③ 清原 裕 (九州大学大学院医学研究院・教授)  
「生活習慣病のゲノム疫学」

**13. 日本遺伝学会第84回大会組織委員会**

|           |                                     |
|-----------|-------------------------------------|
| 大会委員長     | 中別府雄作 (九州大学生体防御医学研究所)               |
| 大会副委員長    | 矢原 徹一 (九州大学大学院理学研究院)                |
| 大会顧問      | 関口 睦夫 (福岡歯科大学先端科学研究センター)            |
| 事務局長      | 佐々木裕之 (九州大学生体防御医学研究所)               |
| プログラム委員長  | 館田 英典 (九州大学大学院理学研究院)                |
| プログラム副委員長 | 片山 勉 (九州大学大学院薬学研究院)                 |
| プログラム委員   | (あいうえお順)                            |
|           | 石野 良純 (九州大学大学院農学研究院)                |
|           | 石原 健 (九州大学大学院理学研究院)                 |
|           | 一柳 健司 (九州大学生体防御医学研究所)               |
|           | 大野みずき (九州大学大学院医学研究院)                |
|           | 楠見 淳子 (九州大学大学院比較社会文化研究院)            |
|           | 熊丸 敏博 (九州大学大学院農学研究院)                |
|           | 佐渡 敬 (九州大学生体防御医学研究所)                |
|           | 柴田 弘紀 (九州大学生体防御医学研究所)               |
|           | 関口 猛 (九州大学大学院医学研究院)                 |
|           | 谷村 禎一 (九州大学大学院理学研究院)                |
|           | 中津 可道 (九州大学大学院医学研究院)                |
|           | 仁田坂英二 (九州大学大学院理学研究院)                |
|           | Szmidt Alfred Edward (九州大学大学院理学研究院) |

**14. 共 催：** ◆ グローバル COE プログラム：自然共生社会を拓くアジア保全生態学 (九州大学・東京大学)

- ◆ 九州大学男女共同参画推進室
- ◆ 文部科学省科学研究費補助金
  - ・特定領域研究「生殖系列の世代サイクルとエピゲノムネットワーク」
  - ・新学術領域研究「活性酸素のシグナル伝達機能」

**15. 連 絡 先：** 日本遺伝学会84回大会事務局  
九州大学生体防御医学研究所・脳機能制御学分野  
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1  
TEL: 092-642-6801  
FAX: 092-642-6804  
E-mail: gs2012@bioreg.kyushu-u.ac.jp



## 2012年度第1回幹事会議事録

日 時：2012年4月20日（金） 13時00分～16時00分

場 所：北大東京オフィスの大会議室

出席者：五條堀，小林，真木，遠藤俊，松浦，関根，館田

鈴木（事務局）（敬称略，順不同）

### 1. 会長挨拶 五條堀 孝

- 日本遺伝学会の国際化とアジア遺伝学会の設立をめざして，第83回京都大会にて開催したアジア遺伝学会特別シンポジウムを今後も継続していきたい。また，4/18の朝日新聞でも紹介された遺伝学用語集編集を今年中に集大成したい（詳細は2. 報告事項参照）

### 2. 報告事項

#### ①会長報告

五條堀 孝

- 第2回アジア遺伝学会特別シンポジウムではオーガナイザーとして，真木先生，遠藤隆先生，館田先生にお願いすることにした。今回は分野を第1回より広げたいので，第1回の招待者は今回の講演者とは別枠で招待することで了承された。また，若手の研究者も参加してもらえるようにする。軌道にのるまでは，日本遺伝学会が資金をある程度サポートしていくのがいいと思われる。その後，規約を作成し，アジア遺伝学会の大会の開催を持ち回りでおこなうようにしたい。  
また，学会の国際化を念頭に，これとは別に一般講演で英語のみで講演するセッションを開設し，留学生などが発表しやすい場を提供するようにしたい。中別府大会委員長に打診し，了解をいただければ第84回大会から行う。

#### ②国内庶務幹事報告

小林 武彦

- 2013・2014年度役員選挙の実施（4月下旬から5月上旬に評議員による会長候補者3名選出の選挙を実施する予定）

#### ③渉外庶務幹事報告

岩崎 博史（小林武彦代理）

- 生物科学学会連合より現在3万円の会費を5万円に値上げしたいと打診があり，幹事会でこれを了承した。

#### ④会計幹事報告

真木 寿治

- 2011年度決算報告がなされた

#### ⑤編集幹事報告

館田 英典

- GGS 発行状況（VOL86 NO.1 - VOL87 NO.1 まで）の報告がなされた。平成24年度の科研費を申請中で結果をまっている（その後4/25に内定通知書が届く）。またJ-STAGE のシステム変更の報告と懸案事項についての報告がなされた。

#### ⑥企画・集会幹事報告

遠藤 俊徳

- 第84回大会でのプレナリーWSの講演者4名についての報告がなされた。また，2014年度大会候補地として長浜バイオ大学（岐阜）があがった。今後遠藤幹事より池村幹事，山本幹事（長浜バイオ大学）に打診してみる。遺伝学談話会の開催については，HP で公募する。公募については HP の改良が必要なので，ラフラに改良をお願いする。

#### ⑦将来計画幹事報告

山本 博章（小林武彦代理）

- 用語の改定案の概要を公表し，広く意見を求めている。昨年末（12/27）に遺伝研にて用語の編集作業をおこない，遠藤幹事に入力システムの支援を頂き，遺伝研から10人の先生のご協力を得た。日本人類遺伝学会等，他学会との連携，またメディアでの報道を通じて広くこの活動を知ってもらう努力を行っている。4月18日付朝日新聞夕刊にて，本件に関わる学会長の今後の方針等の談話とともにこの活動の報道がなされた。今後，編集作業の加速化が必要である。  
また，法人化については他の学協会の状況を考慮し，法人格を持つか否かも含め，本会の運営形態を検討中である。

#### ⑧男女共同参画推進担当

松浦 悦子

- 第84回大会でも WS 開催を九大の男女共同参画戦略推進室と共催とする旨の報告がなされた。また大会参加支援および演題登録時のアンケートを今年も実施する予定である。

#### ⑨広報担当，ホームページ編集 関根 靖彦

- HP のサーバーの移転および4/1よりリニューアルの報告がなされた。今後は大会の動画をアップしたい。また，GSJ.com では懸案事項の追悼文の原稿依頼のお願いがなされた。C. C. TAN 先生，田島弥

太郎先生、田中隆莊先生（会長担当）、三浦謹一郎先生は関口先生に打診、小関治男先生は池村先生に打診、CROW, J. F 先生は高畑先生に打診してみる。評議員（全国区）の先生方に対して GSJ.com への寄稿を依頼したが集まっていないので、再度お願いする予定。BP 賞を受賞した研究発表を載せた「21 世紀の遺伝学」の PDF を HP にアップしたい。現在進行中であるが、HP の英語版の未記載の部分をさらに埋めていきたい。

⑩その他

- 第84回大会では各分野にグループ化して、1 日目の市民公開講演会終了後に分野別懇談会を開く。開催費は学会が補助をする。また品川前会長からの引き継ぎ事項として副会長制については、もう少し議論が必要なため、来期の役員会へ引き継ぎをお願いする。石和貞男元会長からご寄付頂いた20万円については、その寄付の趣旨を尊重して、男女共同参画のための企画と高校における遺伝学教育に関するワークショップに使わせて頂く。

以上

## 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学系教員公募のご案内

平成24年 5 月 7 日

関 係 者 各 位

京都大学大学院理学研究科  
生物科学専攻生物物理学系  
専攻長 阿形 清和

### 教 員 公 募 に つ い て

当教室では、理論生物物理学学科（機能統合学講座）の教員 1 名を公募いたします。自薦・他薦を問いませんので、応募または適任者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

1) 募 集 人 員 教授 1 名

2) 研究・教育分野 生命現象に関する理論を中心とした研究。  
学部・大学院で専門分野の講義・セミナー・実習の担当をお願いします。また学部教育につきましても、分子レベルでの生物科学の講義、コンピューターを用いた演習も担当していただきます。

3) 必 要 書 類 (1) 履歴書  
(2) 論文リスト  
(3) 主要論文の別刷 10 編以内  
(4) これまでの研究の概要および今後の研究・教育についての抱負  
(5) 意見を尋ねられる方の氏名（2 名）  
(なお、他薦の場合は必ずしもすべての書類が揃わなくても結構です。)

4) 締 切 期 日 平成24年 8 月 9 日(木) (必着)

5) 書類送付および問い合わせ先

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学系  
専攻長 阿形 清和  
Tel 075-753-4200, Fax 075-753-4203  
E-mail: agata@mdb.biophys.kyoto-u.ac.jp  
(封筒に「理論生物物理学学科教員応募書類在中」と朱書してください。)

## 国立遺伝学研究所 研究教育職員募集要項

- 1 所 属： 系統生物研究センター 発生工学研究室
- 2 職名・募集人数： 助教 1名
- 3 採用条件： 「発生工学研究室では、マウスをモデルとして主に体節形成の分子機構及び、生殖細胞の発生制御機構の解明を目指した研究を推進している。今回の公募にあたり、相賀教授と協力して、新たな視点で研究の発展に寄与できる能力を有した人材を募集する。マウスを用いた研究経験があることが望ましいが、自分の得意分野、特に、生化学・コンピューターシミュレーション・イメージングなど、独自の切り口で、上記の研究に挑戦する意欲的な研究者を求める。また教育にも興味をもち熱意を持って学生を指導できる研究者を希望する。」
- 4 雇用期間： 5年（業績評価に基づき1回に限り5年の再任可能）
- 5 採用予定時期： 決定後できるだけ早い時期
- 6 応募締め切り： 2012年7月20日（金）必着
- 7 提出書類：
  - (1) 履歴書（英文・和文各1通、年号は西暦、Eメールアドレス記入）
  - (2) 学術論文、総説などの目録（複数著者の場合はあなたの貢献を簡単に説明してください。主要論文の番号に○印を付してください。）
  - (3) 現在までの研究の概要と将来の方向・希望（英文A4判2～3枚）
  - (4) 本人について評価できる研究者（国内・国外各2名以内）の氏名と連絡先
  - (5) 略歴書（HPに書式を掲載）
  - (6) 主要論文別刷
- 8 提出方法： 提出書類（1）～（5）は、できるだけ電子メールでお願いします。
  - (a) メール題名（Subject:）を、「発生工学研究室助教応募」とし、メール本文にもその旨明記してください。
  - (b) 提出書類（1）～（4）の内容は改頁で区切り、一つのファイルにしてメール添付で送付ください。ファイル形式はMS-Wordまたはpdfでお願いします。  
また、（5）の略歴書については、様式をホームページからダウンロードの上記入してください。
  - (c) （6）の主要論文は、wwwで閲覧可能なものに関してはhttpアドレスを含んだリストをメール本文に記入し、別途郵送にて主要論文別刷一式を送付ください。

\* メールでの応募が不可能な場合には、郵送での応募も受け付けます。  
郵送は、応募する部門・研究室名及び職名を封筒に朱書きし、書留で送付ください。  
また、メール着信後、2日以内に受信した旨返信いたします。

### 提出・問い合わせ先等

情報・システム研究機構国立遺伝学研究所人事委員会（人事・労務チーム）

E-mail: nigjinji@nig.ac.jp

郵送：〒411-8540 静岡県三島市谷田1111番地

電話：055(981)6716（直通） Fax：055(981)6734

ホームページ：http://www.nig.ac.jp/

国立遺伝学研究所組織図（http://www.nig.ac.jp/section/index-j.html）

## 神戸大学理学研究科生物学専攻 講師または准教授の公募

神戸大学理学研究科生物学専攻では、以下の要領で担当教員を公募します。本専攻は生体分子機構、生命情報伝達、生物多様性の3つの基幹講座と発生生物学、分子薬理学の2つの連携講座から構成されています。

今回は生体分子機構講座に所属する教員1名（講師又は准教授）を公募します。着任後は細胞機能教育研究分野に所属し、同教育研究分野の教員と連携しつつ、自身のテーマで研究を行っていただきます。また理学研究科・理学部における教育・研究を担当していただくほか、生物学教育部に所属して全学一般教育も担当していただきます。

1. 職名及び人員： 講師又は准教授1名（常勤、任期なし）
2. 応募資格： 博士の学位を有する方。男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性の積極的な応募を歓迎します。
3. 研究領域： 分子、細胞レベルの実験技術を基にした、植物の生理、形態形成、発生、環境応答機構に関する研究分野
4. 応募期限： 平成24年7月31日(火)必着
5. 着任時期： 平成24年10月1日以降のなるべく早い時期
6. 応募提出書類：
  - 1) 履歴書（写真つき）、希望職種（講師又は准教授）をご明記下さい。
  - 2) 研究業績リストおよび主要研究論文別刷またはコピー（5編以内）  
研究業績リストは  
A. 原著論文（査読付き）  
B. 総説（査読付き）  
C. 著書  
D. その他（参考論文、招待講演、投稿中の論文、等）  
の形でまとめて下さい。
  - 3) 科学研究費など外部研究資金取得歴  
代表、分担の区別を明示するとともに、金額も記載して下さい。
  - 4) これまでの研究内容の概要と教育の実績（2,000字程度）、ならびに今後の研究と教育の抱負（2,000字程度）
  - 5) その他（社会貢献等の参考事項）
  - 6) 応募者に関して意見を求めることのできる方2名の氏名・連絡先
7. 応募書類提出先： 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1  
神戸大学理学研究科生物学専攻  
生体分子機構講座人事選考委員長 尾崎まみこ  
応募書類には「生体分子機構講座人事応募書類」と朱書きし、簡易書留便またはそれに準ずる方法でご送付下さい。提出書類は返却しません。個人情報保護の観点に基づき適切に処理します。
8. 問い合わせ先： 神戸大学理学研究科生物学専攻 三村 徹郎  
Tel/Fax: 078-803-5708  
e-mail: mimura@kobe-u.ac.jp
9. その他： 選考の過程で応募者にセミナーを求める場合があることをご承知おきください。

『参考』生物学専攻生体分子機構講座所属教員〔平成24年4月現在〕

細胞機能教育研究分野：三村 徹郎、深城 英弘、七條千津子、大西 美輪

分子生理教育研究分野：尾崎まみこ、洲崎 敏伸、佐倉 緑

情報機構教育研究分野：前川 昌平、宮本 昌明、森田 光洋

生物学専攻の構成や各教員の研究テーマについては生物学専攻ホームページ

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/fsci-biol/> をご覧下さい。

尚、本公募は国際公募として、広く国内外に公募を行っています。

## 第29回（平成24年度）持田記念学術賞候補者推薦依頼について

持田記念医学薬学振興財団より第29回（平成24年度）持田記念学術賞候補者の推薦依頼が届いております。推薦を希望される方は推薦書1部および別刷論文10報以内各1部およびその写し11部を郵送にて、2012年6月30日（土）（学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる。）までに学会事務局宛にご送付ください。

（学会問い合わせ先）

TEL 055-981-6736 FAX 055-981-6736

E-mail: japgenet@lab.nig.ac.jp

担 当：鈴 木

### 第29回（平成24年度）持田記念学術賞候補者の推薦要領

#### 1. 持田記念学術賞の対象

本財団は、生命科学を中心とする医学、薬学及びこれらに関連する物理学、化学、工学、生物学等の先見的独創的研究を育成し、かつ、これらの成果を総合して医療をはじめとするヘルスケアに応用し、もってわが国の医療及び国民の保健の向上に資することを目的としております。持田記念学術賞はその一環として創設された冠となる賞であり、次の6項目の研究分野で、研究の進歩発展のため顕著な功績のあった研究者に贈呈致します。

- (1) バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究
- (2) バイオ技術を基盤とするゲノム機能／病態解析に関する研究
- (3) 免疫／アレルギー／炎症の治療ならびに制御に関する研究
- (4) 循環器／血液疾患の病態解析／治療制御に関する研究
- (5) 創薬・創剤の基盤に関する研究
- (6) 創薬の臨床応用に関する研究

#### 2. 褒 賞 金

1件1,000万円で2件以内

#### 3. 推 薦 人

- 1) 本財団より推薦依頼を受けた学会
  - 2) 本財団の理事又は諮問委員
- ※ 1 推薦人は1候補者に限ります。

#### 4. 推 薦 方 法

別添推薦書に必要な事項を記入し、署名・捺印の上、本財団あてに送付してください。

#### 5. 締 切 期 日

平成24年7月31日（火）（当日までの消印有効）

#### 6. 選考の方法

選考作業は選考委員会が行い、平成24年9月28日（金）に受賞候補者を内定し、本財団理事会に諮り決定いたします。

#### 7. 褒賞金の贈呈式

平成24年10月26日（金）

#### 8. 提出先及び問合せ先

財団法人 持田記念医学薬学振興財団 事務局

〒160-0003 東京都新宿区本塩町7番地6 四谷ワイズビル

Tel. (03)3357-1282（代表）

Fax. (03)3357-1264

E-mail: zaidan@mochida.co.jp

URL: <http://www.mochida.co.jp/zaidan/index.html>

## 第29回（2012年度）井上学術賞受賞候補者の推薦について

推薦を希望される方は財団への提出書類（推薦書1部および別刷論文各2部）およびその写し11部を郵送にて、2012年8月20日（月）（学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる。）までに学会事務局宛にご送付ください。

（学会問い合わせ先）

TEL 055-981-6736 FAX 055-981-6736

E-mail: japgenet@lab.nig.ac.jp

担 当：鈴 木

### 第29回（2012年度）井上学術賞受賞候補者推薦要項

財団法人 井上科学振興財団

#### 1. 候補者の対象

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。

但し、年齢が2012年9月20日現在で50歳未満の研究者に限ります。

#### 2. 学 術 賞

本賞：賞状及び金メダル 副賞：200万円

授賞件数は5件以内とします。

注）受賞者は、原則として1件につき1人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。但し、この場合においても1件として取り扱います。

#### 3. 推薦依頼先

35学会、並びに当財団の理事・評議員等に推薦を依頼します。

#### 4. 推薦件数

各推薦学会からは2件以内とします。

#### 5. 提出方法

所定の推薦書用紙（当財団のホームページ <http://www.inoue-zaidan.or.jp/> よりダウンロードできます。）に必要事項を記載し、当財団あてに提出願います。

#### 6. 締切期日 2012年9月20日（木）必着

#### 7. 選 考

当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。

選考の結果は、2012年12月中旬に推薦者に通知します。

#### 8. 学術賞の贈呈

2013年2月4日（月）午後4時から 東京で開催の予定。

#### 9. 推薦書提出先及び連絡先

財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15

南平台今井ビル601

電話：03-3477-2738

FAX：03-3477-2747

E-mail: inoue01@ inoue-zaidan.or.jp



## 第44回（2012年度）内藤記念科学振興賞候補者推薦について

推薦を希望される方は提出書類（財団 HP 参照）およびその写し11部を郵送にて、2012年9月3日（月）（学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる。）までに学会事務局宛にご送付ください。

詳細は以下の HP を参照ください。

<http://www.naito-f.or.jp/>

（学会問い合わせ先）

TEL 055-981-6736 FAX 055-981-6736

E-mail: [japgenet@lab.nig.ac.jp](mailto:japgenet@lab.nig.ac.jp)

担 当：鈴 木

## 第44回（2012年度）内藤記念科学振興賞候補者推薦要領

### 1. 趣 旨

人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的領域において進歩発展に顕著な功績のあった研究者に対してほう賞を授与するものである。

### 2. 申請者資格

- 1) 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において、独創的テーマに取り組み、進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
- 2) 候補者は単独とするが、異なる研究グループによる共同研究の場合には、連名であっても良い。
- 3) 候補者の再度の推薦は差支えない。

### 3. 締 切 日

2012年10月1日（月）財団必着

### 4. 授賞式・顕彰

授賞式は受賞者夫妻を招いて2013年3月19日（火）に行う。

受賞者には内藤記念科学振興賞（正賞：金メダル、副賞：1,000万円）を贈呈する。



## ◆ 会 員 異 動 ◆

### 新入会・再入会

|         |          |                                           |
|---------|----------|-------------------------------------------|
| 石 原 健   | 812-8581 | 福岡市東区箱崎6-10-1<br>九州大学理学研究院生物科学部門          |
| 大 西 一 光 | 080-8555 | 北海道帯広市稲田町西2線11番地<br>帯広畜産大学地域環境学研究部門       |
| 中戸川 仁   | 226-8503 | 横浜市緑区長津田町4259-S2-12<br>東京工業大学フロンティア研究機構   |
| 松 本 知 高 | 812-8581 | 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1<br>九州大学システム生命科学府進化遺伝学研究室 |
| 後 藤 亮   | 990-8560 | 山形県山形市小白川町1-4-12<br>山形大学生物学科半澤研究室         |



## 退 会

小野木章雄，菅井俊郎，西河良論，蓑田 歩，児玉紗也香，土佐幸雄，小林啓恵，長谷川政美，細谷春善，大垣昌弘，群馬県蚕糸技術センター，(独)産業技術総合研究所 つくば中央第6図書室，奈良先端科学技術大学院大学附属図書館，(独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 ブドウ・カキ研究拠点，東洋大学附属図書

## 寄贈図書・交換図書

|                                                   |          |          |        |
|---------------------------------------------------|----------|----------|--------|
| 科学                                                | Vol. 82  | No. 4, 5 | (2012) |
| ACTA SOCIETATIS BOTANICORUM POLONIAE              | Vol. 80  | No. 4    | (2011) |
| ChineseJournal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY | Vol. 17  | No. 5, 6 | (2011) |
| ChineseJournal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY | Vol. 18  | No. 1    | (2012) |
| JOURNAL OF SHANGHAI UNIVERSITY                    | Vol. 15  | No. 4-6  | (2011) |
| MONOGRAPHIAE BOTANICAE                            | Vol. 101 |          | (2011) |

(鈴木真有美)

# 日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したとき、あるいは定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員にすることができる。  
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員の選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。  
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。  
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。  
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。  
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。  
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。  
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。  
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。  
7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。  
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。  
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。  
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
- 付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>Genes &amp; Genetic Systems</b> 第87巻2号（付録）<br/>2012年5月31日発行 非売品<br/>発行者 五條堀 孝<br/>印刷所 レタープレス株式会社<br/>Letterpress Co., Ltd. Japan<br/>〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地<br/>電話 082 (844) 7500<br/>FAX 082 (844) 7800</p> <hr/> <p>発行所 <b>日本遺伝学会</b><br/>Genetics Society of Japan<br/>静岡県三島市谷田1111<br/>国立遺伝学研究所内</p> | <p>学会事務取扱<br/>〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内<br/><b>日本遺伝学会</b><br/><a href="http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html">http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html</a><br/>(電話・FAX 055-981-6736<br/>振替口座・00110-7-183404<br/>加入者名・日本遺伝学会)</p> <hr/> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。<br/>乱丁、落丁はお取替えます。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|